

2024年7月30日

明治大学研究者交流支援制度実施報告書

農学部 特任講師 戸田安香

2024年5月9日から2024年5月19日まで、明治大学国際交流基金事業「研究者交流支援制度」により、ドイツのMax Planck Institute for Biological IntelligenceのディレクターであるMaude Baldwin博士を招聘した。

Baldwin博士と本プログラムの申請者である戸田は、2012年以降、脊椎動物における味覚の進化に関する共同研究を行ってきた。中でも、花蜜食鳥類における糖の味受容機構を解明した研究成果は、*Science*誌に2度掲載されるなど、世界的な注目を集めてきた(Baldwin[#], Toda[#] et al., *Science*, 2014, Toda et al., *Science*, 2021)。これらの成果が認められて、Baldwin博士は本年3月にMax Planck Institute for Biological Intelligenceで初の女性ディレクターに就任している。

本学滞在中は、申請者の所属研究室メンバーを対象としたクローズドセミナーと、農学部教員及び学生を対象としたオープンな講演会を開催した。

所属研究室を対象としたセミナーには、関連プロジェクトを担当する7名が参加した。共同研究に関する最新未発表データを共有し、活発な議論を展開した。また、当研究室で進行中のプロジェクトに関してもアドバイスを受け、さらなる研究展開に繋げることができた。

学部全体を対象とした講演会は、5月14日13時30分～15時10分に生田キャンパス第一校舎6号館207教室にて開催した。約30名が参加した。「Functional evolution of the taste and digestive system in birds」というタイトルで、これまで申請者と共に行ってきた脊椎動物における味覚受容の進化研究に加え、Baldwin研で行っている消化酵素に関する最新研究もご紹介いただいた。講演後は活発な質疑応答が行われた。

今回、Baldwin博士は0歳と4歳の子供を連れての来日となった。子育てをしながら世界第一線で活躍するBaldwin博士との交流は、本学の学生及び教員にとって大きな刺激になったと思われる。



講演会の様子

以上